

平成 25 年度 児童福祉施設職員のためのワークショップ
～ 被虐待児童理解のための施設職員研修～
開 催 要 綱

開催趣旨 児童福祉施設では被虐待児童など、行動上の問題を抱えた児童が増加しています。これらの背景には家族の問題や、地域社会の影響によるものが多く、児童福祉分野に従事するスタッフには、その理解とより高度で専門的なトレーニングが求められています。

今年も田中 万里子先生をお迎えし、児童福祉施設職員のためのワークショップを開催いたします。田中先生は 1970 年代から児童虐待、ネグレクトの問題に取り組み、また日米の子どもと家族の治療に深く関わっていらっしゃいます。このワークショップは、施設における子どもたちへのより効果的なケアが提供できる職員の養成を目的とし、毎年新しい視点を盛り込んで開催しています。

また、ホテルでの宿泊研修とすることにより、参加者の皆さんが日常の業務から離れ、ワークショップへ集中できることを大きな期待としています。多くの施設福祉職員の皆様をご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 時 平成 25 年 10 月 29 日（火）～ 30 日（水）

場 所 ザ・クレストホテル立川 東京都立川市錦町 1-12-1 電話 042-521-1111

主 催 社会福祉法人 テレビ朝日福祉文化事業団

事務局 特定非営利活動法人 エンジェルサポートセンター

定 員 30 名

講 師 田中 万里子心理学博士（サンフランシスコ州立大学名誉教授）

参加費 一人 35,000 円
宿泊費、食事（10/29 昼食、夕食、10/30 朝食）、テキスト代等を含みます。
最終日 10/30 の昼食は各自でおとりください。

このワークショップは「児童養護施設等の職員の資質向上のための研修事業」の助成対象となる場合があります。詳細は都道府県社会福祉協議会にご確認ください。

申 込 み 必要事項を記入した申込書の提出（FAX またはメール）と、参加費のお振込みをもって申し込み手続き完了といたします。申込み多数の場合は、定員になり次第締め切らせていただきます。

振 込 先 ゆうちょ銀行 記号 10150 番号 98396791 児童福祉ワークショップ
他銀行から振込の際は 店番 018 ゼロイチ八チ店 普通 9839679

申込締切 平成 25 年 10 月 15 日（火）

お申し込み・お問い合わせ先

ワークショップ事務局 NPO 法人エンジェルサポートセンター（担当 高橋利之）

電話番号 044-750-0186 FAX 044-750-0192

Eメール info@angel-npo.org

受付確認 申込書と参加費振込の確認ができ次第、受付確認の FAX または E メールをお送りいたします。

事前課題 このワークショップでは実践的に理解を深めるため、参加者全員に事前に課題を提出いただきます。別紙様式により 10 月 15 日（火）までに必ずご提出ください。なお、ご提出にあたり事前に責任者の了承を得るようお願いいたします。

スケジュール

1 日目		2 日目	
9:30	受付		朝食（ホテル）
10:00	開講式	9:30	講義 応答技術（効果的な言語コミュニケーションの習得）
10:15	講義		<ul style="list-style-type: none"> リフレクション（どのように気持ちに寄り添うか） パラフレーズ
	<ul style="list-style-type: none"> 児童虐待というトラウマ記憶のしくみについて：トラウマを体験すると何が起こるか。 気持ちをあつかうことの重要性について 最近のアメリカでの児童虐待への取組について 気持ちが通うコミュニケーション：共感、感情伝達と感情開放 	12:00	昼食（各自）
12:30	昼食（ホテル）、休憩	13:00	課題学習
13:30	講義 対応技術（非言語コミュニケーション）		前日のグループワークをもとに日常の子どもとの関わりや問題行動への対処について、より適切なコミュニケーションについて学びます。グループ発表後、スーパービジョンを行います。
	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いてかかわることを可能にする具体的な方法の習得 相手をより良く理解するための NLP によるコミュニケーションチャンネルの識別を学び実習する。 	16:30	閉講式
17:00	終了、休憩	17:00	終了
18:00	夕食（ホテル）		
19:00	グループワーク		
	課題に取り組むためのグループ分けと各グループで課題について理解を深める		
21:00	終了		

ねらい このワークショップでは

講師が説明する

講師が説明したことについて実際にやってみせるか、より良い方法について講義する。

学んだことを受講生同士で練習する

実際にやってみたことからさらに学習を深める

という4段階を通じて、皆さんに実践力をつけていただくことを期待しています。

また、事前課題により実践で役立つ応用力も促進していくことを目標としています。

講師プロフィール

田中万里子 心理学博士

サンフランシスコ州立大学カウンセリング学科名誉教授。InnerCore9 社長。1985 年から毎年訪日し、医学、心理学、福祉分野の専門職トレーニングワークショップを行っている。1999 年に POMR（トラウマ解消法）を開発。

その他

- 会場までは公共の交通機関をご利用ください。
- このワークショップは宿泊を含む全日程に参加することを前提としており、遅刻早退はできません。参加者の皆さんがワークショップに集中できることを期待しています。
- お振込み時に振込元名義が 12 文字以内になるよう、「シヤカイフクシホウジン」、「ジドウヨウゴシセツ」など法人格は省略してお手続きください。
- この事業は社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団の助成事業です。

児童福祉施設職員のためのワークショップ参加申込書

平成25年10月29日(火)～30日(水)に開催される
「児童福祉施設職員のためのワークショップ」への参加を申し込みます。

申し込み日	平成25年	月	日
ふりがな			
氏名			
性別	年齢	歳	
所属施設名			
住所 〒			
電話番号：			
受付確認書類送付先	FAX・Eメール(いずれかに をつけてください)		
FAX番号/Eメール(PC)：			
福祉職経験年数	年	月	
通信欄			

お申し込み FAX 番号 044-750-0192

Eメールの場合は上記欄内の内容をメール本文中にご記入ください。

お申込みメールアドレス info@angel-npo.org

参加申込締切 平成25年10月15日(火)

平成25年度 児童福祉施設職員のためのワークショップ

～被虐待児童理解のための施設職員研修～

提出課題 【表紙】

子どもとの関わりの場での対話の様子をワープロ書きで1～2枚にまとめて、作成例をご参考に書式にしたがって書き出し作成してください。この記録はワークショップ当日に練習問題として参加者に一部ずつ配布し、研修中に講師および参加者として事例検討を行います。(施設名、提出者氏名は削除しますので、施設や地域が特定できないような表現をお願いします)

提出にあたっては、必ず必要事項を記入の上でこの表紙を添付してください。その際には提出前に課題の内容を所属施設の施設長に確認いただき、提出許可の署名をいただくようお願いいたします。個人情報保護に問題のないよう、ご確認をお願いいたします。

提出締め切りは10月15日(火)です。FAXまたはEメールで提出してください。ご不明な点がありましたら下記提出先までご連絡ください。

参加者氏名
施設名
連絡先住所 〒
電話番号
FAX 番号
私はこの書類を「平成25年度児童福祉施設職員のためのワークショップ」の課題として提出することを許可します。
施設名
施設長署名

課題表紙(本用紙にご記入ください)

課題本文(作成例を参考にご自身で作成してください)

エンジェルサポートセンター 「児童福祉ワークショップ」係

FAX 044-750-0192 Eメール info@angel-npo.org

課題提出期限 平成25年10月15日(火)

課題作成例

1. ケース

児童年齢 _____ 歳 性別 男・女 学年 幼・小・中・高 _____ 年

入所理由 _____ 入所時年齢 _____ 歳

加えて・入所前はどこに誰と住んでいたのか
・本人は入所理由についてなんと言われているのか
・親とのかかわりはどの程度あるのか についても記述してください。

既往症

家族構成

兄弟の年齢を書いてください。兄弟はどこにいるのか、また何歳まで母親または両親、または父親と一緒に住んでいたのかについても書いてください。

もし、おじいちゃん、おばあちゃんが同居していたような場合はそれを記入してください。

このケースで対応した職員の性別 男性・女性

2-a. 問題行動の要約

(例)

大人の注意を受けても無視をする。更に注意をすると暴力行為になることがある。

(このような場合、どのようなことに関しての注意に反応するのかを書いてください)

2-b.

あなたは何が原因でこの子はこのような問題行動を起こしたと思いますか？

(職員の問題行動についての理解)

3. 対話記録

子ども：C 職員：A

場所または場面： 施設内の居室で机にマジックでいたずら書きをしている。

A：机は書くところではないから、一緒に消そう。

C：うるせーな、パーカ。(と言いながら書き続ける)

A：やめなさい。

C：無視して書き続ける。

(子どもがこれ以上話をしないような場合、どのようにその場が終わったのかも書いてください)

4. このケースについてあなたが関わってゆくのにどのような援助が欲しいですか

この作成例をご参考にして、ワープロ書きにて作成してください。

呼び名、地名、方言などにより、個人・施設・地域等の特定ができないようご注意ください。